

陽だまり

22

Vol.

2016.12



公益財団法人
丹後中央病院

広報誌

〒627-8555
京都府京丹後市峰山町杉谷158-1

TEL 0772(62)0791
<http://www.tangohp.com>

陽だまりvol. 22

CONTENTS

長らへば またこのごろや～ 病院長 西島 直城	2
腹腔鏡手術について 副院長 荒深 景一	4
小児科の活動報告 小児科 儘田 光和 医師	6
中学校職場体験	8
薬の豆知識 薬剤部	10
Photos	11
展示のご紹介	12

◆ 今号の表紙◆



中学校生の職場体験を実施しました。



長らへば またこのごろや しのばれむ

憂しと見し世ぞ 今は恋しき

百人一首

病院長 西島 直城

昔のつらかったことが、今となっては恋しき思い出として目に浮かぶ。

私の父母は学校教諭で山口県の分校に住んでいた。戦後15年間は生活が苦しく、母は持ち前の交際力で空いている田畑を借りて稲作や畑を耕していた。

姉と私は言われたわけでもなく、その田畑で遊びながら手伝うのが楽しかった。れんげ畑の花で冠を作ったり、竹を切り、竹細工でうなぎとりの籠を編んだりした。

乾期は湖の底に沈んでいた木が出てくる。その木を分校に運び、なたで木を割ってまきをつくり、1束いくらかで売った。この頃教えられたのが“きもとたけうら”であった。“木は木の元側から割り、竹は反対に裏側（末側：先の葉が付く方）から割る”。





すぐ近くには、高圧電線を配電する為に山と山の間に鉄塔が建っていた。鉄塔と鉄塔を結ぶ電線はゆるく垂れ流さないといけない。従ってその鉄塔の下側は草刈りをする。私のお袋は、その4キロ区間を自分で請負い、私はそれに駆り出された。刈り取った草をまとめて、かざらで巻き付けて下道まで落とした。

そんな頃、父が秋芳洞へ皆で行くと言い出した。父は自転車に私を乗せて、姉と母はバスで行った。カルスト台地で弁当を食べる予定だった。母は秋芳洞の入り口の広場で缶詰を買った。「この缶詰ちょうだい」と片足立ちで両手を頭上でポーンと叩くお頂戴ポーズをとった。とても嬉しかったのでしょう。

二つ上の姉とは、よくイノシシの田んぼや、つらかった鉄塔の下刈について話す。それから60年の歳月が経った。

～今年一番長かった日～

この土曜日外来が終わったのが13時。それから、自家用車で京都駅に向かった。京都に着いたのが15時。15時5分の新幹線のぞみに乗った。

大井川を渡るとすぐに日本坂トンネルに入り、抜けると突然左手にお化粧をした富士が見えた。安倍川、富士川を渡ると、左手から富士よりもっと大きな雪を運ぶ真っ黒な雲がみえ、これが冬将軍だとぞっとした。それからうとうとしていた。

東京は急に寒くなり、外は時雨だった。しかし、コートは無かった。17時に品川到着。品川からリウマチの講演会の会場までタクシーを利用した。この5～6年でリウマチの治療・糖尿病の治療に革命がおこった。当院はリウマチ医を育てる病院であり、ほとんどの患者が1年以内に寛解している

早々に会場を後にして、品川駅で「東京ばなな」を買った。病棟から何回も電話がかかりそれに対応したからだ。23時30分京都着、そこからノンストップで縦貫道の大宮についた。その足で病院に行き、すぐに病棟に上り、準夜、深夜帯の看護師さんを「東京ばなな」で労をねぎらった。長い長い一日だった。

東京は寒く、みぞれ。京都の駅は木枯らし。その点丹後は暖かい。丹後に住んでいる方は幸せです。冬は暖かく、夏は涼しい。そんな風に感じる今この頃です。



「えりゃーでかん」

外来やベッドサイドでの診療の折に 屡々耳にするこの言葉。

この漢字に置き換えようもない短かな一文が、思いがけず私に強く響く…

関西弁とは明らかに異なる、丹後弁とでも云えばいいのでしょうか。標準語なら「辛くてやりきれない」、若干ニュアンスが違ような気がします。

尾張は一宮出身の私ですが、不思議なことに、生家に暮らす頃は、日常的に使用していた言葉でした。何故にこの丹後でという意外な思いと共に、故郷を捨て30有余年、懐かしくも、ちょっぴりしょっぱい想いが胸に沁みます。

閑話休題。

私は1985年北海道大学を卒業後、主に東京大学傘下で癌を中心に30数年、外科医を務めて参りました。今や職種の細分化先鋭化が進み、「一医師、一臓器」のような極端な状況に陥りつつありますが、当時はまだそれ程厳密に専門化しておらず、上から甲状腺癌、乳癌、肺癌、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、胆管癌、胆嚢癌、膵癌と泌尿器科系、婦人科系を除くほぼ全ての癌を相手にしてきました。この15年は、腹腔鏡に専ら従事しております。特に胃癌の腹腔鏡下切除を主な仕事にしています。

ここ丹後中央病院には、2014年10月からお世話になっておりますが、それ以前、当院での腹腔鏡手術といえば、胆石・胆のう炎に対する腹腔鏡下胆摘術が殆どでした。現在はそれに加え、虫垂炎、鼠径ヘルニアといった良性疾患から、胃癌、大腸癌、膵癌という悪性疾患まで適応を拡大して、鏡視下（腹腔鏡）手術を実施しています。鏡視下手術を受ける患者サイドの大きなメリットは、1) 傷が小さく術後の痛みが少ないこと 2) 早期社会復帰ができること、この2点に集約できるのではないのでしょうか。近年、鏡視下手術の適応は拡がりを見せています。その割合は、全国平均で言いますと、大腸癌；50～75%、胃癌；25～50%程度です。今後は更にその比率の急速な上昇が予想されます。但し、こうした纏まったデータを出せるのは、大学病院か都市部の大病院という偏りがあり、地方の中規模病院ではまだまだ低い値と言わねばならないのが現状です。当院外科では積極的に鏡視下手術を適用しており、大腸癌87%、胃癌84%です。症例数があまりにも少ない（大病院に対して1/10～1/15）ので大言壮語は厳に慎まなければならないと重々承知しているのですが、比率だけを見れば全国に先駆けて、などとちょっとばかり言いたくなります（飽くまで小声ですが）。直近1年間の消化器癌手術症例を表にして提示しました。ご参考までに。

直近1年間の消化器癌手術症例（'15年9月～'16年8月）

	合 計		鏡視下	開腹	在院平均日数 ^{#1}	縫合不全
胃 癌	19 (16: 84%)	全 摘	5	3 ^{#2}	19.8日	2
		幽門側切除	11	0	24.6日	1
大腸癌	30 (25: 83%)	結 腸	16	3 ^{#3}	18.3日	0
		直 腸	9	2 ^{#4}	23.8日	0

()：鏡視下手術率

#1 縫合不全、化学療法を除く。

#2 2例 残胃癌

#3 1例 大腸癌術後

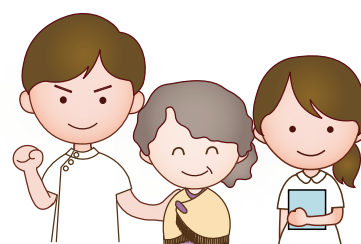
#4 2例 マイルス手術

肝切除	2例	転移性肝癌
脾切除	1例	脾癌（鏡視下手術）

当院は、京都大学肝胆脾・移植外科との間に太いパイプがあり、複数の若手常勤外科医がローテーションで参ります。今更ながらですが、若いエネルギーは、素晴らしい。新鮮な風を職場に吹き込み、最新の知見を齎してくれます。その新たな息吹に触れながら、情性に流れがちな己を顧み、日々、自らの立ち位置を再確認させて戴いています。更に肝臓癌の手術では大学からの多大な協力を得て、当院でも安全に肝切除を実施することが可能になりました。この2年間で5例の肝切除を合併症なく行っています（最初の2例は勿体無くも教授御自らのご指導を賜りました）。実は、いつになるのかは分かりませんが、大胆にも消化器センター構想を描いています。内科とか外科とか思い煩うこともなく、おなかの痛い人、具合の悪い人はどうぞセンターへ、これが私の希望です。こんなことを臆面もなく吐露するのには理由があります。それは、当院の消化器内科の存在です。手前味噌になりますが、当院の消化器内科は非常に優秀です。特に内視鏡診断、内視鏡治療の分野では、語弊を恐れず言えば、地方病院のレベルを凌駕しているといっても過言ではありません。その消化器内科との密な連携の上に日々診療に従事しております（最もお蔭を蒙っているのは、我々外科医かもしれないと内心密かに思っています）。そしていつの日か消化器センターへ。

長くなりました。最後に、一言。

一人でも多くの「えりやうでかん」人々を減じるべく、一層奮励努力して参る所存です。地域の皆様には、ご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



小児科の活動報告

小児科 儘田 光和 部長

小児科開設から半年以上たちました。当科では3本柱として①一般外来②ワクチン外来③内分泌専門外来を掲げ、診療にあたっています。ここではこれまでの小児科の活動状況について触れたいと思います。

まずは一般外来診療について。月曜日から木曜日の毎日午前中を一般外来診療にあてています。患者さんの多くは上気道炎や気管支炎、胃腸炎といったいわゆる「かぜ」の範疇にあてはまります。小児科診療はその時期のウイルスや細菌の流行状況に大きく左右されますが、近年は各種ウイルス等の迅速キットの出現で、10分程度もあれば感染源を特定できるようになりました。これまで、4、5月にはインフルエンザウイルス、夏には溶連菌やアデノウイルスの流行が見られ、秋になってRSウイルスやマイコプラズマが散見されています。当科ではこのような迅速キットを使用し確実な診断を行うよう心がけています。

一方治療面では、安易な抗菌剤処方に伴う耐性菌の問題や不必要と思える過剰な投薬がもたらす医療費負担の問題にも真摯に向き合い、患者ニーズに合わせた必要かつ最小限の投薬を実践していきたいと考えています。

次いで多くみられるのが食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息などアレルギー疾患です。このようなアレルギー疾患を有する患者さんは年々増加しており、それに伴い診断治療ガイドラインが整備されてきました。当科でも、これらガイドラインに準拠した標準治療の実施に重点を置いています。



次にワクチン外来について。近年、全国的に小児科では肺炎や気管支炎などで入院加療を要する患者の減少が指摘されており、その大きな理由はワクチンの普及にあります。以前に比較すると接種可能なワクチンは飛躍的に増加し、新生児期にはスケジュールを組むのに苦労するほどです。なかでも、肺炎球菌とインフルエンザ桿菌に対するワクチンは重症感染の減少に大きく寄与しました。当科でもワクチン接種には力を入れており、開設当初は水曜日午後のみとしていましたが、希望者の増加に伴って現在は月曜日から木曜日まで毎日午後をワクチンの予約外来とし、患者さんの希望に添えるようにしています。

最後に、当科では月曜日と木曜日の午後をワクチン外来とともに専門外来として小児内分泌診療にあてています。小児内分泌疾患とは低身長症や甲状腺疾患、思春期発来の問題や糖尿病、肥満などで、これらの疾患はその診断や治療において専門性の高い判断を要することが多い反面、普段から症状を自覚することが少ないせいもあり疾患としての認知度が少ない分野でもあります。そこで当科では、地域における適切な診療体制を構築していく目的で、この分野の啓蒙活動にも力を入れています。

7月には「但馬地区小児科医懇話会」にて低身長症に関する講演を行い、内分泌を専門としない小児科医に対して情報共有し医療連携への体制づくりを呼びかけました。また12月には「京丹後市学校保健研修会」での講演を予定しています。現在小中学校では成長曲線の記載と活用が課題となっており、適切な成長曲線の利用を通して小中学校との連携を構築していきたいと考えています。

まだまだ理想とする小児科診療には程遠い状況ですが、徐々にそれに近づけるよう、今後も努力していきます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



中 学 校 職 場 体 験



今回、2日間職場体験でお世話になりました。2日間体験をして、丹後中央病院の事がよく知ることができました。特に印象に残った体験は、リハビリテーションについてです。自分の中で、以前から思っていた「リハビリ」は、患者さんの動かなくなった手や足を動くように治す事がリハビリだと思っていたけど、理学療法士のMさんの話や実際にリハビリテーション室に行って、今まで思っていたイメージとは、ガラッと変わりました。リハビリは動かない所を治すんじゃなくて、なぜそこが動かないのかを考え、その筋肉がどうすれば動くのか患者さん1人ひとりで違う治療をするんだと知ることができました。他にも、色々な体験をさせてもらえて、今まで以上に病院の事、仕事内容が分かりました。自分も将来は医療関係の仕事につくために、これから勉強を頑張ろうと思いました。(大宮中学校R.Yさん)

人の命を助けることの素晴らしさ、苦労が学べました。車いすやストレッチャーに乗り、初めてどんなことをされたら怖いかが分かり、患者さん側の気持ちにもなれてとても良かったです。また、さまざまな科を廻らせていただき、普段なかなか見ることのできない機械や部屋を見ることができました。それぞれの担当者さんの言葉や、表情から「本当にこの仕事を大切にしているんだな」と感じました。今回、普段の生活や学校では体験できない貴重な時間を過ごして「医療に携わる仕事がしたい」という思いがますます強くなりました。とても充実した2日間を過ごさせていただきました。この体験を今後の生活、将来に役立てていこうと思います。(大宮中学校M.Oさん)

私は、最初から中央病院に行きたいと思っていて、病院の仕事についてたくさん見学ができて、すごくいい経験になりました。病院で働いている人は、みんな患者さんに笑顔で優しく話していることが印象的でした。私も、ロビーのところで患者さんにあいさつをして、あいさつを返してもらって自分もうれしかったです。病院の仕事は、私が思っていた以上にたくさんあってびっくりしました。看護師や薬剤師などの他にもたくさんの部があって他では体験できないことを体験させてもらいました。今までより、もっと病院の仕事に興味を持てたし楽しかったです。この2日間の職場体験を、これからの生活や将来にいかしていきたいと思います(大宮中学校H.Hさん)



私は、看護師になりたいけど、他の仕事も見てみたいと思って体験してみました。病棟で働く看護師さんなどは、患者の目線になって会話などをすることなどを知ったので、改めて看護師さんなどはすごいと感じました。普段あんまり知らない場所や物を見れたので「病院は私たちの知らない所でも仕事をしているんだな」と思いました。そして、休む時もなく仕事をしているし、「患者への笑顔」なども行っているから、病院で働く人は「人思いの人」なんだなと感じました。何もかもが患者さんの為なので、失敗することは許されない事が分かりました。どんな仕事でも、笑顔で対応するのがすてきだなと思いました。(峰山中学校N.Nさん)

2日間の体験で、働くことには楽しさもあるけど大変さもあるということが分かりました。いろいろな場所を見学させていただいて、レントゲンをとったりするところをもっと知りたいと思いました。CTなどは、テレビでしか見たことがなく、間近で見て、本当にすごいと思いました。レントゲンをとる部屋は、放射線が外に出ないようにドアや窓が工夫されていて、すごいと思いました。また、リハビリについてももっと知りたいと感じました。患者さんの生活がよくなるように手助けすることは大変だけど、やってみたいと思いました。日常的に私たちがやっていることでも、なかなかできない患者さんもいるので、こういうことについて、もっと勉強したいと思いました。そして、普通にできることを大事にして、不自由な人を助けたりできるようになりたいと思いました。(峰山中学校H.Nさん)

2日間職場体験をさせてもらって私が知らなかった病院の中の仕事というものを知ることができました。1日目は、薬や医療器具を見せてもらって、こんなにたくさんの医療器具があるなんて知りませんでした。その他にも、患者さんとどのように話をしたらいいのを見ることができました。患者さん1人ひとりが食べる物がちがったり、患者さんと楽しそうに話しているところがすごいと思いました。2日目は、レントゲンや細菌について見たりすることができました。私は細菌の所があるなんて知らなかったからビックリしました。レントゲンでは機械を動かしたりなどしてふだんでは体験しないことを体験することができました。私は将来看護師になろうと思っています。今回の体験で私の知らなかった病院の仕事について知れてよかったです。(峰山中学校R.Nさん)

薬の豆知識

薬の効き方

薬は口から飲んだり、皮膚に貼ったり、注射したりして、身体に投与されます。体内に入った薬は、一部の薬を除き、多くの薬が血液中に吸収され、臓器や組織に運ばれていき、そこで薬が作用します。

重要な働きをしている血液

臓器や組織を構成しているのはほとんどが細胞です。そして、その細胞に酸素や栄養を供給しているのは血液です。さらに、細胞でつくられた老廃物を受け取って体外に排泄するのも血液の重要な役割です。そして、血液の循環によって、薬は血液中から体の臓器や組織へと移動することができます。

薬の主作用と副作用

薬が病気の治療を目的として働く作用を主作用と言います。一方で、期待する治療効果以外の作用を副作用と言います。

薬の主作用や副作用は、血液中の薬の濃度（血中濃度）によって左右されます。薬の血中濃度が高くなれば作用が強くなり、血中濃度が低くなれば作用は弱くなります。

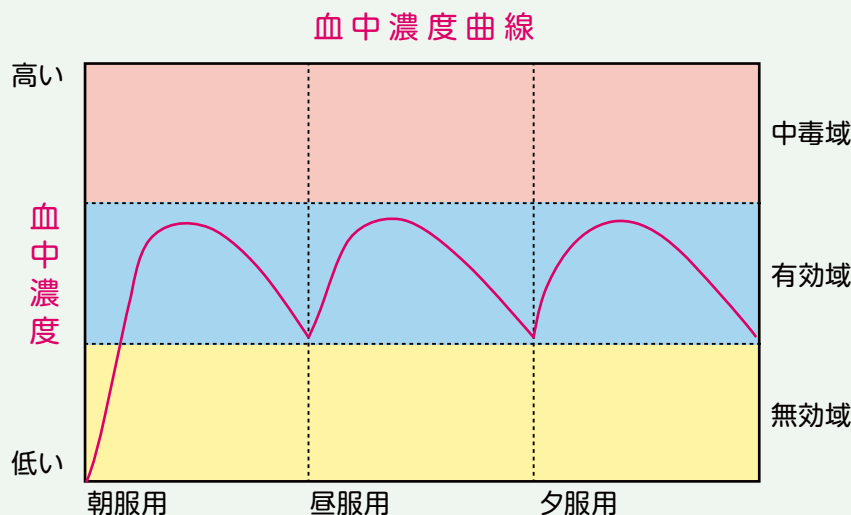
血中濃度

血中濃度とは、血液中に薬がどの程度含まれているかをあらわしています。血中濃度がある一定量に達すると効果が現れます。また、血中濃度が上がりすぎると、副作用を生じることがあります。

薬の効果を最大限発揮させるには

薬はどの程度の血中濃度で薬の主作用が最大限に発揮するのか、またどの程度の血中濃度で副作用が起こるのが確認された上で、薬の飲み方（用法）、飲む量（用量）が決められています。

用法・用量は、薬の血中濃度を一定に保ち、薬の有用性を最大限に高め、副作用のリスクを最小限にするように考えられています。薬を飲む回数や量が不十分だと、薬の効果が出にくく、薬の量を勝手に増やして飲むと重篤な副作用が現れることもあります。定められた用法・用量を守ることによって、薬を安全かつ有効に使用することができます。



Photos



**KYOTO MEDIONET開設
(北部若手医師等教育用TV会議システム)**



芝蘭会講演会（豊岡病院）



消防訓練



高校就職説明会

編集後記

“傷ついたニワトリを殺すな。”これはHONDAを創業した本田宗一郎氏の言葉。

ニワトリは傷ついたニワトリを見つけると傷を突っついて殺してしまうという。このことは人間の社会にもあって、弱みを突かれることは多くある。弱みは少なからず誰も持っている。突かれた人は身を守ろうとし、士気が下がり、組織への参加意識が希薄となる。これだと組織は丸となることはできない。それを打開するには、現場のリーダーは自らの弱みを見せ、弱みを罰しない環境を作ることが重要であるとされる。※1

この話を読み返すと私は幼少の頃に家でニワトリを飼っていたことを思いだす。餌やりは私の当番でした。餌をやっているとよく指を突かれ痛かった。確かにニワトリは攻撃的だった。ある日、飼っていたニワトリがイタチに入られて殺されたことがあった。幼少の身にはショックで、さらにそれがさばかれて食卓に出されたのは大ショックでした。まったく食べることが出来なかった。それはおっさんになった今でも続いていて、つくねは食べれても、鶏肉の形が残ったものは未だに食べることは出来ない。

“傷ついたニワトリ”といえ、ここに来たときもそんな状態だったかも知れない。でも、私よりはるかにつらい思いを経て当院で働く人がいることも知る。私は決してニワトリを殺さない。そして食べない。
(秘書広報部 中田智之)

※1 “あなたのチームは機能していますか？”(パトリック・レンシオーニ著) から一部引用しています。

展 示 の ご 紹 介

フラワーアレンジメント★☆☆☆☆



生花展示（玄関ホール）★☆☆☆☆



峰山
小学校



網野
みなみ
保育所

